

上海「ミニ」通信

(北九州市 上海事務所から中国・上海の「今」をお伝えします！)

初めまして！ 北九州市上海事務所の山口と申します。この5月から上海にて勤務しております。

縁あって世界第二位の経済大国「中国」の経済の中心地上海で勤務することになったので、こちらでの見聞などを基に、今の上海・中国の経済、社会あるいは日常生活に関する様々な事柄について硬軟取りまぜて、ご報告させていただきます。

平成 28 年 5 月 26 日

【第 1 回】上海の人口に見る中国の戸籍制度とその改革について

【今日のポイント】

- ◆ すべての中国の国民は「都市戸籍」「農村戸籍」のいずれかを持ち、「農村戸籍」を持ちながら都会で働く人には様々な不利益（不自由）が存在する。
- ◆ 政府は均衡ある発展のために、農村部から都市部への移住を促す「都市化」に取り組んでいる。
- ◆ 一方で、大都市への過度の集中を防ぐため、大都市の戸籍取得には非常に高いハードルを課している。

1 上海市はどんな都市なのか

・面積:約 6.3 千km²、常住人口:約 24 百万人(うち戸籍人口は約 14 百万人)、全国の 4 つの直轄市の一つ。

【参考】面積＝東京都:約 2.1 千km²、福岡県:約 5.0 千km²、人口＝東京都:約 13 百万人、福岡県:約 5 百万人
以上のように上海市についての事実を整理していて、特に中国の戸籍制度がかなり日本と違っていることを知りました。今回はその内容を整理したいと思います。

2 中国の戸籍制度とその問題点

すべての国民は戸籍で管理され、その戸籍は都市（非農業）戸籍と農村（農業）戸籍に分けられ、出生地からの移動が厳しく制限されています。戸籍地以外に住んでいると医療保険、年金、子女への公教育などの公的サービスの一部が受けにくい仕組みになっています。

1958年に始まったこの制度は、当初は国民の移住を規制して農村部の農業生産力を維持する狙いがあったとされています。しかし、経済発展によって、よりよい仕事を求めて農村から都市に「農民工」と呼ばれる出稼ぎ労働者が流入しました。都市戸籍を持たない「農民工」は前述の通り社会保障など様々の面で不利であるため、都市戸籍を持つ者との間での格差が広がるとともに、「農民工」の子女は親と一緒に都会に出てきても十分な教育が受けられない、または子供だけが農村部に残る（「留守児童」と言われるようです）などが社会問題化しているようです。

3 政府の対応

そこで政府は、2020年までに農村人口の1億人(!)に都市戸籍を与え、都市に定着させることを目標にしています。

ただし、住宅価格の高騰、交通渋滞、大気汚染などが現在でも顕著な北京、上海などの大都市への人口集中は回避し、中小都市に人の流れを誘導して、国としてバランスの良い発展を目指しています。

あわせて、農民を都市に移動させて、耕作面積当たりの労働人口を減らせば、農民の所得も増加し、都市との経済格差も是正されるのではないかと期待しているようです。

4 上海市の対応

上海市は全国でも北京と並ぶ戸籍が取りにくい(≒人気のある)都市で、全国で初めてポイント制による戸籍取得制度が導入されています。学歴・納税状況・家族状況・上海居住年数など幅広い項目を点数化し、一定の点数をクリアすれば、「居住証」が与えられ、それを7年間(最近では4年間でOKのこともある)継続できれば、上海市戸籍取得の申請(取得ではなくあくまで申請!取得の可否は別の基準がある)ができるというものです。

私と机を並べている中国人の職員に話を聞いてみると、農村戸籍者が都会の有名大学に入学する際の入りにくさや上海で不動産取得ができないなど、聞いてみないと分からない悩み(不便)を多く感じているようです。

こちらに来て数週間ですが、街を歩いていて表面的には日本以上に都会で不自由はあまり感じないだけに、戸籍という制度に縛られ、国民に移動の自由が十分与えられていない現状に改めて驚かされ、まだまだ社会の至るところに統制色があることを実感しました。

高齢化が進んでいる中国で、これから人の都市間移動に伴い、社会保障制度なども変わってくるはずで、北九州市の地元企業で、高齢者サービスに限らず、今後中国を市場として検討する場合には、これらの制度改正などにも多少の目配せが必要かも知れません。私もこれからこの国のことを少しずつ勉強していき、不定期ながら皆様に本稿でいろいろな情報提供ができればと思っています。